

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 優秀

私たちの生活を支えている税金

長岡市立岡南中学校

三年 星野 遥

私は今まで、税金が社会のために使われていることは知っていましたが、何に使われているかについてはよく知りませんでした。この作文を書くにあたって税金のことをよく理解しようと思い、詳しく調べてみることにしました。

税金とは、国や都道府県、市町村が人々から集めているお金のことです。学校や道路の整備、医療や福祉、年金などの社会保障制度にも税金が使われています。そして、国や地方自治体の歳入が確保されることによって、財政赤字を解消し、国債など借金が増えないように防ぐことができます。もし税金がないと、公共サービスを受けるのにお金がかかり困ることがたくさんあります。例えば、医療費がすべて自己負担になったり、ごみ収集が有料になったりするなどがあります。

私は日本の税の歴史について興味がわき、調べてみました。日本の税の歴史の最初は卑弥呼が支配する邪馬台国の時代にあるとされています。正式に税金の制度が取り入れられたのは飛鳥時代からだと言われています。租・調・庸という三種の税がありました。明治時代になると、農作物や特産品で

はなく金銭で納税することが一般的になりました。また、「法人税」や「所得税」が取り入れられた時代も明治時代です。時代が移り変わっていくうちに、少しずつ今の税金の制度に近いシステムが整えられてきました。江戸時代には、「年貢」と呼ばれる税金の制度が始まりました。戦後になると、日本国憲法が定められ、自分で稼いだ金額とそれにかかる税金を計算して税金を納める「納税申告制度」も取り入れられました。平成元年には、三パーセントの税率で「消費税」が取り入れられ、その後、段階的に引き上げられ、現在は八パーセントあるいは十パーセントになりました。このように、経済社会の変化にともなって税の制度は変わってきました。

税金は私たちの生活を支えるための大切な資金です。毎日の買い物やサービスを受けるときに何気なく支払っている消費税も医療や福祉などに使われています。私は、税金について調べたことで、税金は快適で豊かな生活を送る上で必要不可欠なもので、税金を納めることの重要性を学びました。今、私たち中学生は消費税が一番身近で自分でも支払っている税であると思いますが、私たちが大人になって働くようになったら、消費税だけではなく、住民税や所得税なども支払うことになることがわかりました。私は今回の調査を通じて、税金が社会に果たしている役割やその歴史について、深く理解することができました。税金を納める一人の人間として、税についてしっかりと調べ、学ぶことが大切だと感じました。